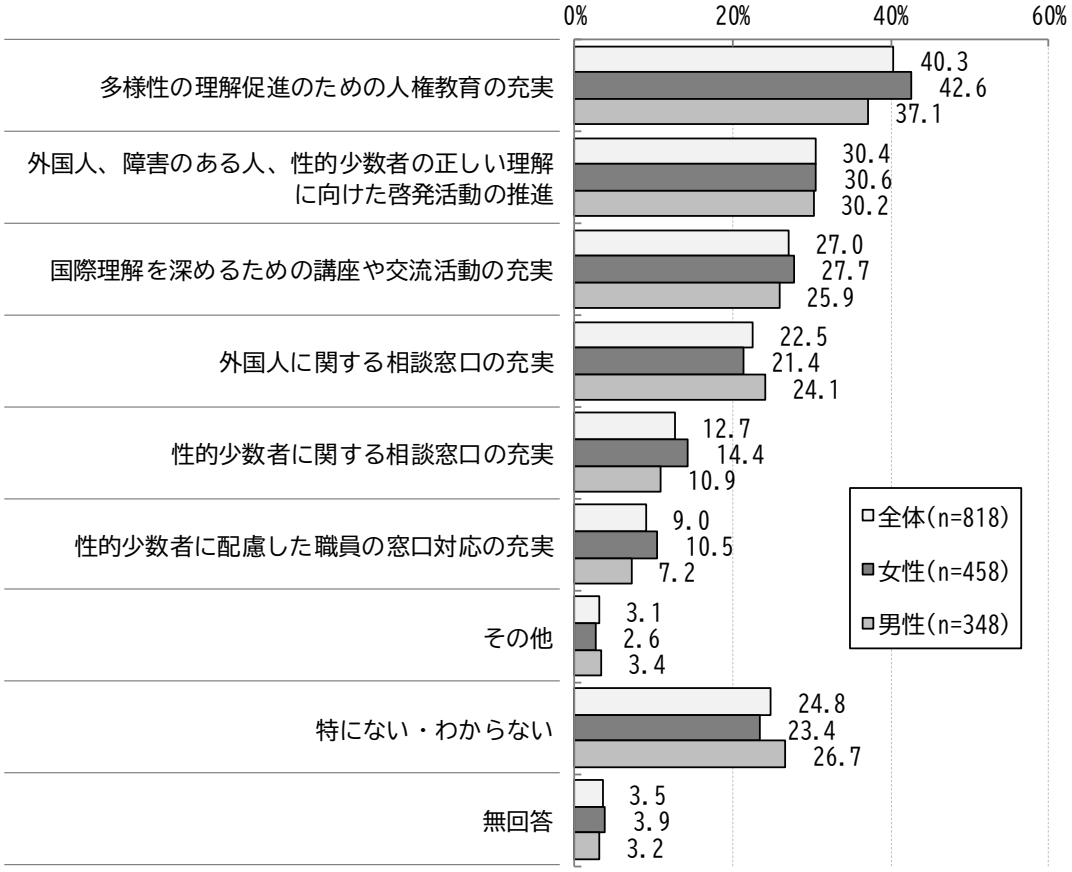
（39） 多様性を生かした社会づくりで行政が力を入れるべきこと

問 25 多様性を生かした社会づくりに向けて、行政が力を入れるべきことは何だと思いますか。
（○は３つまで）

多様性を生かした社会づくりで行政が力を入れるべきことについて、「多様性の理解促進のための人権教育の充実」（40.3%）が最も高く、次いで「外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」（30.4%）、「国際理解を深めるための講座や交流活動の充実」（27.0%）となっています。

性別にみると、「多様性の理解促進のための人権教育の充実」を重視する割合が男性より女性の方が 5.5 ポイント高く、女性では最も高くなっています。



年代別にみると、いずれの年代でも「多様性の理解促進のための人権教育の充実」が最も高くなっており、特に 40～49 歳でその傾向が顕著です。また、40～49 歳や 60～69 歳では「外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」が他の年代に比べて高い傾向にあります。さらに、29 歳以下では「外国人に関する相談窓口の充実」が他の年代より高くなっています。

前回調査と比較すると、「外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」が 7.2 ポイント、「国際理解を深めるための講座や交流活動の充実」が 9.3 ポイント低下しています。

		多様性の理解促進のための人権教育の充実	外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進	国際理解を深めるための講座や交流活動の充実	外国人に関する相談窓口の充実	性的少数者に関する相談窓口の充実	性的少数者に配慮した職員の窓口対応の充実	その他	特にない・わからない	無回答
今回調査(n=818)		40.3	30.4	27.0	22.5	12.7	9.0	3.1	24.8	3.5
前回調査(n=521)		44.9	37.6	36.3	21.3	10.0	11.3	3.5	8.3	6.7
女性	今回(n=458)	42.6	30.6	27.7	21.4	14.4	10.5	2.6	23.4	3.9
	前回(n=267)	43.8	38.6	35.6	18.7	9.0	9.0	3.0	21.3	4.5
男性	今回(n=348)	37.1	30.2	25.9	24.1	10.9	7.2	3.4	26.7	3.2
	前回(n=213)	46.0	38.5	38.5	25.8	12.7	13.6	3.3	13.2	8.0
29歳以下(n=79)		34.2	17.7	27.8	32.9	17.7	13.9	5.1	20.3	2.5
30～39歳(n=93)		40.9	24.7	33.3	10.8	14.0	12.9	7.5	26.9	1.1
40～49歳(n=112)		46.4	37.5	17.9	21.4	13.4	8.9	3.6	21.4	1.8
50～59歳(n=162)		38.9	30.9	24.7	22.8	16.7	10.5	0.0	27.2	0.6
60～69歳(n=169)		44.4	36.7	29.0	24.3	10.7	6.5	3.0	21.3	4.7
70歳以上(n=195)		36.4	29.2	29.2	23.1	8.2	6.7	2.6	28.2	7.2

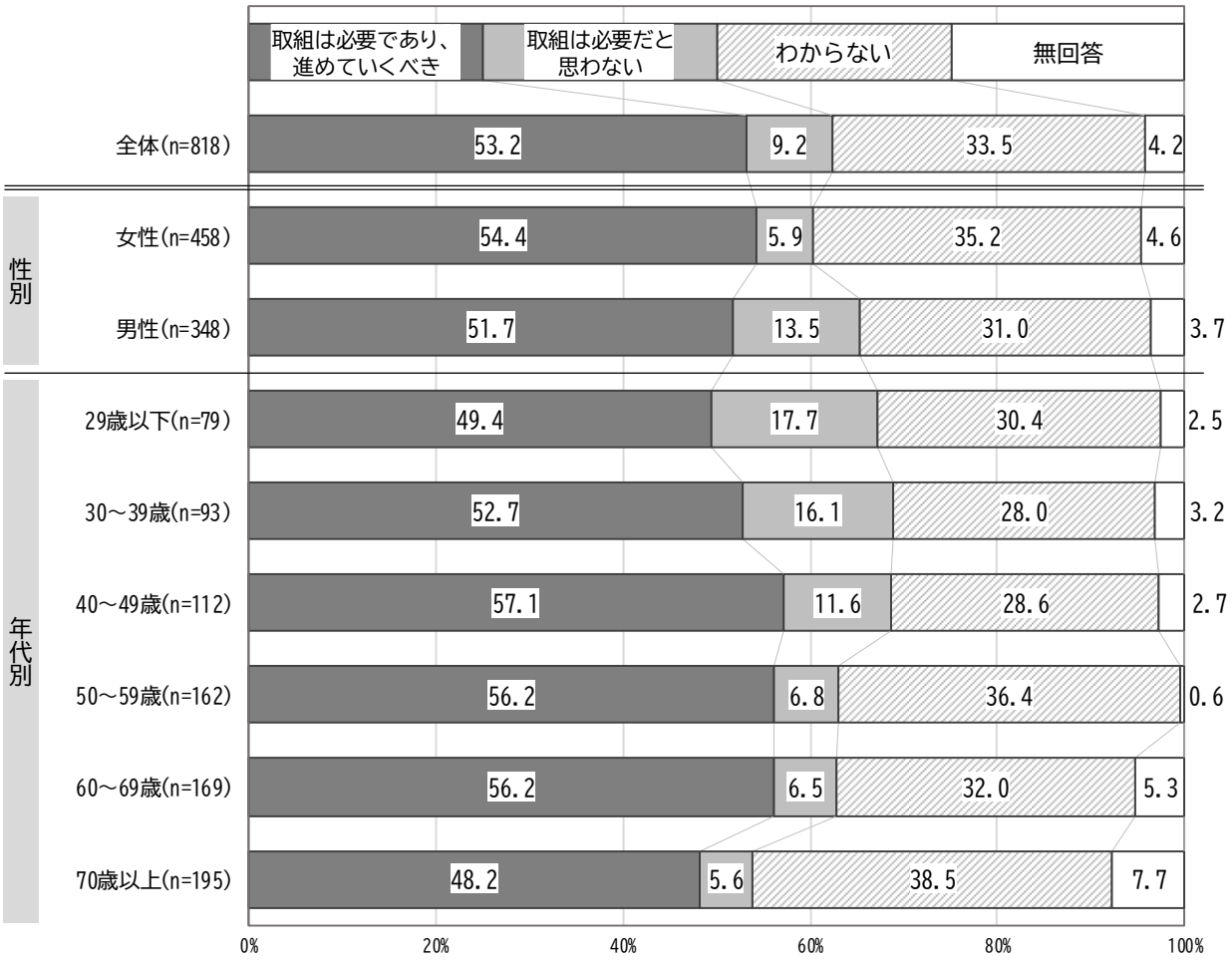
（40） 性的少数者に対する取組の必要性

問 26 性的少数者の方への取組を進めていくことについて、あなたはどう思いますか。（○は１つ）

性的少数者に対する取組の必要性について、「取組は必要であり、進めていくべき」が 53.2%、「取組は必要だと思わない」が 9.2%となっています。

性別にみると、男女ともに取組が必要であるとの意見が多いものの、女性の方の割合が高くなっています。一方で、男性は「取組は必要だと思わない」と回答した割合が女性の２倍以上となっており、性別間での意識の差がみられます。

年代別にみると、「取組は必要であり、進めていくべき」と回答した割合は、40～49 歳で最も高く、次いで 50～59 歳および 60～69 歳が続いています。一方で、70 歳以上では「取組は必要であり、進めていくべき」が最も低くなっています。また、29 歳以下では「取組は必要だと思わない」が他の年代に比べて高くなっています。

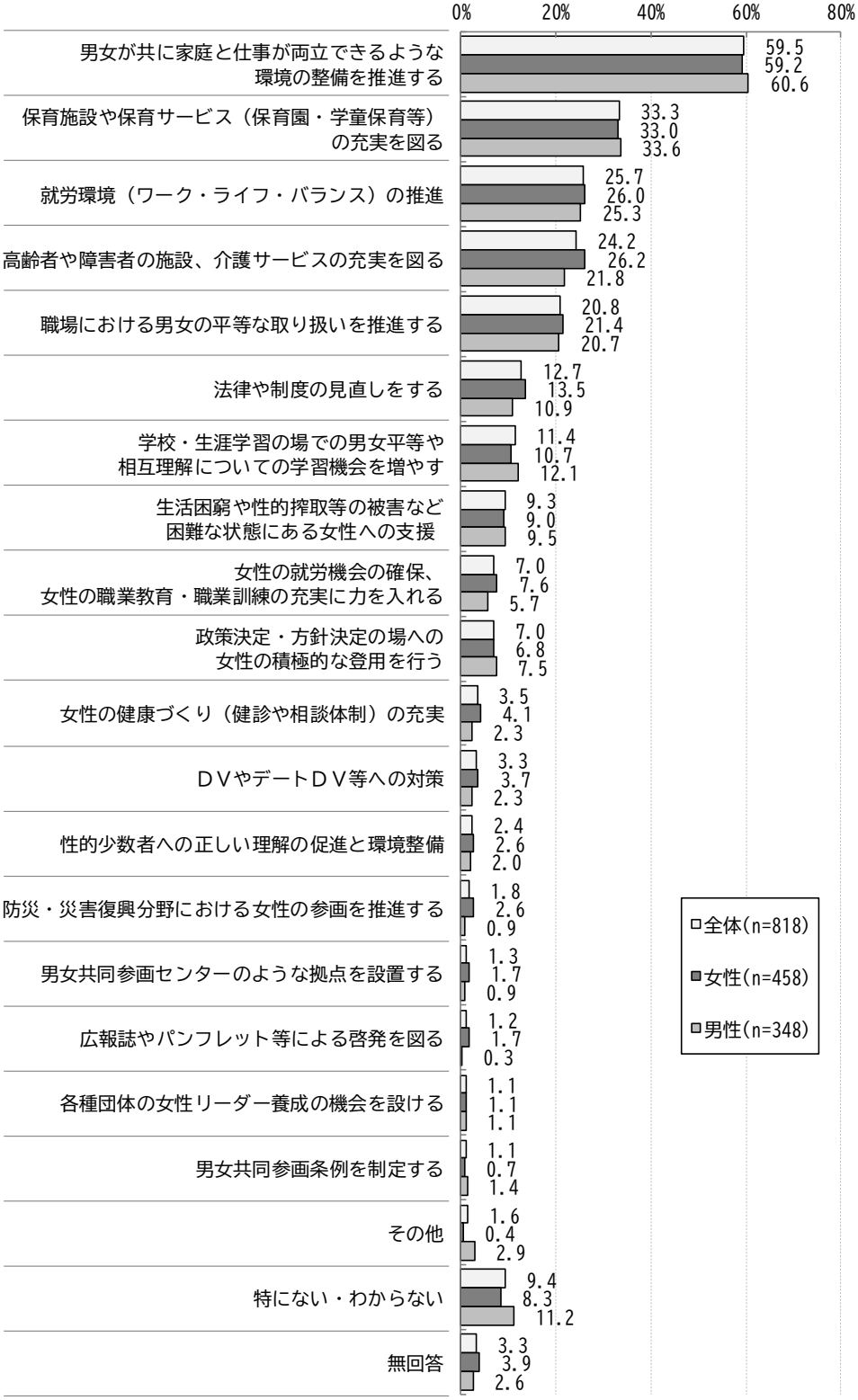


（41） 男女共同参画社会を実現するために重要な取組

問 27 男女共同参画社会を実現するために、重要だと思うことは何ですか。（○は３つまで）

男女共同参画社会を実現するために重要な取組について、「男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する」（59.5%）が最も高く、次いで「保育施設や保育サービス（保育園・学童保育等）の充実を図る」（33.3%）、「就労環境（ワーク・ライフ・バランス）の推進」（25.7%）となっています。

性別にみると、男女で大きな差はみられず、概ね同様の項目が重視されています。



年代別にみると、いずれの年代でも「男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する」が最も高くなっており、特に29歳以下や50～59歳でその傾向が顕著です。また、30～39歳では「保育施設や保育サービス（保育園・学童保育等）の充実を図る」が他の年代に比べて高くなっています。さらに、70歳以上では「政策決定・方針決定の場への女性の積極的な登用を行う」や「高齢者や障害者の施設、介護サービスの充実を図る」が他の年代より高い傾向にあります。

前回調査と比較すると、「学校・生涯学習の場での男女平等や相互理解についての学習機会を増やす」は5.3ポイント低下しています。

		男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する	保育施設や保育サービス（保育園・学童保育等）の充実を図る	就労環境（ワーク・ライフ・バランス）の推進	高齢者や障害者の施設、介護サービスの充実を図る	職場における男女の平等な取り扱いを推進する	法律や制度の見直しをする	学校・生涯学習の場での男女平等や相互理解についての学習機会を増やす	生活困窮や性的搾取等の被害など困難な状態にある女性への支援	女性の就労機会の確保、女性の職業教育・職業訓練の充実に力を入れる
今回調査(n=818)		59.5	33.3	25.7	24.2	20.8	12.7	11.4	9.3	7.0
前回調査(n=521)		58.7	35.1	－	27.8	20.9	12.3	16.7	－	11.5
女性	今回(n=458)	59.2	33.0	26.0	26.2	21.4	13.5	10.7	9.0	7.6
	前回(n=267)	62.5	37.8	－	33.3	25.1	10.5	21.3	－	11.2
男性	今回(n=348)	60.6	33.6	25.3	21.8	20.7	10.9	12.1	9.5	5.7
	前回(n=213)	65.3	38.5	－	25.8	19.7	16.9	14.1	－	14.1
29歳以下(n=79)		67.1	34.2	32.9	3.8	12.7	13.9	7.6	3.8	10.1
30～39歳(n=93)		53.8	44.1	34.4	14.0	18.3	15.1	8.6	7.5	10.8
40～49歳(n=112)		59.8	34.8	31.3	22.3	21.4	8.9	9.8	13.4	6.3
50～59歳(n=162)		65.4	29.6	29.6	21.0	22.8	14.8	10.5	11.1	6.2
60～69歳(n=169)		62.7	33.7	18.9	31.4	29.0	13.0	13.0	8.9	8.9
70歳以上(n=195)		51.8	29.2	18.5	34.9	16.4	10.8	14.9	8.7	3.6

		政策決定・方針決定の場への女性の積極的な登用を行う	女性の健康づくり（健診や相談体制）の充実	ＤＶやデートＤＶ等への対策	性的少数者への正しい理解の促進と環境整備	防災・災害復興分野における女性の参画を推進する	男女共同参画センターのような拠点を設置する	広報誌やパンフレット等による啓発を図る	各種団体の女性リーダー養成の機会を設ける	男女共同参画条例を制定する
今回調査(n=818)		7.0	3.5	3.3	2.4	1.8	1.3	1.2	1.1	1.1
前回調査(n=521)		9.6	－	－	－	6.1	4.0	3.3	4.0	3.5
女性	今回(n=458)	6.8	4.1	3.7	2.6	2.6	1.7	1.7	1.1	0.7
	前回(n=267)	9.0	－	－	－	4.5	4.1	2.2	4.5	2.6
男性	今回(n=348)	7.5	2.3	2.3	2.0	0.9	0.9	0.3	1.1	1.4
	前回(n=213)	12.2	－	－	－	9.4	4.7	5.2	4.2	5.2
29歳以下(n=79)		1.3	5.1	7.6	1.3	1.3	0.0	0.0	1.3	2.5
30～39歳(n=93)		3.2	3.2	4.3	1.1	3.2	1.1	2.2	1.1	1.1
40～49歳(n=112)		6.3	7.1	5.4	5.4	1.8	0.9	0.0	0.9	0.9
50～59歳(n=162)		4.9	3.1	1.9	3.1	1.2	1.2	0.0	0.6	1.2
60～69歳(n=169)		7.1	1.8	3.0	2.4	0.6	2.4	0.6	1.8	0.6
70歳以上(n=195)		12.8	3.1	1.5	1.5	2.6	1.5	3.6	1.0	0.5

		その他	特にない・わからない	無回答
今回調査(n=818)		1.6	9.4	3.3
前回調査(n=521)		3.1	5.6	10.4
女性	今回(n=458)	0.4	8.3	3.9
	前回(n=267)	3.0	6.7	－
男性	今回(n=348)	2.9	11.2	2.6
	前回(n=213)	3.8	4.7	－
29歳以下(n=79)		1.3	13.9	3.8
30～39歳(n=93)		3.2	11.8	2.2
40～49歳(n=112)		2.7	8.0	0.9
50～59歳(n=162)		1.2	8.6	0.0
60～69歳(n=169)		1.2	7.1	4.7
70歳以上(n=195)		1.0	9.7	6.2

（42） 自由記述

問 28 性別に関わらずみなさんが共に、いきいきと暮らせる社会づくりに向けて、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

自由記入欄にいただいたご意見を、福生市男女共同参画行動計画（第６期）の４つの主要課題ごとに分類し、主なものをご紹介します。

主要課題＜第１＞男女共同参画社会形成への意識づくり等の推進

マイノリティへの配慮は重要だが、一方でマイノリティの主張が正義でマジョリティが悪という思想が政治にも影響を与えていると感じることが増えた。女性としてマイノリティの声を聞きつつ、マジョリティにも配慮した社会を期待したい。（女性,30～39歳）
人との関わり合いをしたい人だけでなく、自ら一人を好む人も生きやすい世の中になるようにも考えてほしい。（女性,40～49歳）
各個人が、性別のみならず常に相手の立場に立って物事を判断するよう心掛ける必要が有る（女性,70歳以上）
昭和生まれの私の印象として、同世代から上の世代にはまだまだ、古き「男性らしさ」「女性らしさ」に囚われている感覚があります。せっかく、今の子供や若者が新しい感性を育てても、社会に出た時に「おかしい」「変」という目で見る大人ばかりに囲まれては萎縮してしまい、結局は無駄な教育に成りかねないので、親子で学ぶ機会や、男女共同参画が進んでいる国の実情などを年配者が知る為の情報発信があると良いのかなと思います。（女性,40～49歳）
1人1人が誰かに（パートナー等）に否定されず、普通の生活で幸せを感じられる社会だと優しく生きていられると思う。（女性,40～49歳）
そもそも「“いきいきと暮らす“ことが正しい」「”男女の差をなくす“ ことが正しい」という一方的な考え方を押し付ける事に違和感。「人それぞれ能力、考え方、価値観は違う」ことを念頭に、他者を尊重する社会になればいいと思う（女性,40～49歳）
性別や国籍、人種に関わらず全ての弱者に対する配慮や救済制度を拡充すること。またそのための教育を幼少のころから丁寧に行うことが肝要。（男性,50～59歳）
このアンケートを通して、改めて男女の性別による差を意識しました。全員が完全に平等というのは難しいと思いますが、せめて普段の日常生活で不自由を減らしてほしいと思います。（男性,20～29歳）
性別で平等を謳うよりも、個々の考えや希望を尊重出来れば良いと思う。（男性,50～59歳）
性教育の運用については、第一段階では、男女の差を認識させたうえで最終的には男女一緒に行うことが望ましい。（男性,70歳以上）
お互いに尊重しあい、協力し、仲良く生活できるような教育が必要です。上から目線で、意見し合うのではなく、正しく冷静に判断し、他人に迷惑をかけないで、協力し合えるようになると良いと思う。経済的に大変な人も多いので、市でいろいろな支援が必要と思う。福生市に住んでいて良かったと思えるような市にしてもらいたいと考えます。よろしくお願いします。（女性,60～69歳）
子供たちへの教育、意識の啓発が大事かなと思います。今の若者の価値観は自分達の時代のものとはかなり違ってきていると感じるので。柔軟な若者達が昔の差別とかをとっぱらって新しい時代を築き上げてくれたら、世の中よりハッピーになるのではないかと思いました。（女性,50～59歳）
質問文の中に“男性が家事や育児に参加することの抵抗感”とありますが、男性の中には抵抗感ではなく、“そもそもそれらは女性がやるもの。”“自分にはできないこと”といった思い込みが強くある人がいます。それは育ってきたなかで植えつけられた（？）ものだと思うので、成人してからそれを改善させるのは難しい感じがします。男女共同といっても、なかなか改善されていかない問題が多いと思います。このアンケートの質問の中にも、男性・女性に対しての考えのかたよりを強く感じるものがありました。（男性優位的な考え）現状を知る為とはいえ、不快感を覚えるようなものはどうかと…。（女性,50～59歳）
ひとりひとりが個人として尊重される社会を実現するための教育、社会制度の整備が望まれます。（女性,70歳以上）

性別に関係なく、1人1人が希望する生活ができる社会が良いと思う。男女にこだわらないで、その人のことを1人の人間として見ると、良いと思う。希望する生活ができれば幸せと思う。（女性,40～49歳）
福生市は男性も積極的に育児や子育てに関わっている姿をよく見ると思います。性別で線引きせず、一人一人それぞれができる事をやって育児や介護等をみんなで支えられたらいいと思います。例えば問27の18の質問には「女性」とありますが、「男性」の場合もありますし、どうしても男女を分けなければいけない場面や状況も出て来てしまいます。問6の避難所などは当てはまるでしょうか。いろいろな考え方があり、答えは一つとはいかないことが多い「男女共同参画」ですが、寛容にかまえて自分にはどんなことができるのか、改めて考えてみたいです。（女性,50～59歳）
男女共同参画を男女平等とわかりやすく言葉の変更を。（男性,70歳以上）
一人一人が人間として大切にされる、人権が守られることがあたりまえの社会になって欲しいと願います。（女性,70歳以上）
男女いきいきと暮らしていける生活が一番望ましい。その為には男女相互の理解力を深める事、お互いに尊重しあえる人格を育むべきと考える。小学校以降から「教育」が重要だと考える。教育が身につけば良い方向に繋がっていくと考える。（男性,70歳以上）
体力的に男女差があると思いますが…同じ仕事をする事が平等とは思いません。理解することが平等と思います。（女性,60～69歳）
男だから、女だからではなく人として認められそれぞれ頑張りたい分野で頑張れる環境がある、そんな社会になっていったら嬉しいです。（女性,50～59歳）
若者は、家事や育児の協力の体制が行われつつあるが、やはり、年齢が高い程、昔の教育なのか理解で出来ていない気がする。（女性,50～59歳）
知らないと変わらないので多くの人が知ることができるように発信してほしい。今、困っている人が相談できる場をしっかり作ってほしい。よろしくお願いします。（女性,50～59歳）

主要課題＜第２＞ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進

仕事の時間が多く、賃金が少ないので、そういった部分を整えないとそもそも社会作りへの関心を持てない気がします(女性,30～39歳)
性別に関わらず、仕事と家事のパワーバランスについては、個々の事情が関わり、個人ごとに異なるものだと考えております。そのため、性別等の括りなどではなく、個々の状況に応じた社会活動を行える制度や運用があるとよいと考えています。（男性,40～49歳）
男女が共に活躍する環境を作るには、特に役員や使用者側にあたる中高年世代が、今まで自分たちがやって来たことは正しいという気持ちを抑えて、慣例や先入観を排して、これからを生きる人々が働きやすくなることを考えて制度を設計するべき。（女性,20～29歳）
私は今の時代には遅れていて、わからない事が多いですが、、子供達は家庭を持っていますが、昔と違って男性も家事や子育てにとても関わっていると思います。女性が子供をお腹の中で育てるのも出産もとても大変です、それを男性がわからないのは仕方ないと思います。しかし、出産の後の子育てに積極的に関わってくれることで男女の平等制に近づいていくと思います。（女性,60～69歳）
ワークライフバランスや労働基準法がきちんと運用されている上で、それは「働く事・暮らしを必ず両立させる事」「働かない時間を増やすこと」ではないと思っています。がむしゃらに働く人は働き、家庭に100％入る、社会参画しないも多様な生き方の一つです。私はもともとキャリアウーマンで長時間労働も平気なタイプでしたが子供が産まれ家庭優先にしたいのにそれでも働く事を手放せないことに息苦しさを感じています。リーダーを目指さない社会的に男性と平等に扱われたくない、今はそう思うのですが数年後には変わると思います。そのための「柔軟な働き方」「就労機会の確保」の整備を是非おねがいしたいです。（女性,30～39歳）
男でも女でも自分で働いて生活してゆくのは当然のことです。結婚したり、家庭を持てば役割も増え、年齢に応じて子育てや介護が必要になってきます。その時に職場や地方自治体の支援が充実していれば皆が生きやすいと思っています。（女性,70歳以上）

主要課題＜第３＞あらゆる暴力の根絶

DV・虐待・ストーカー被害に巻き込まれた方向けの一時退避や自立支援の方策を分かりやすく(一方でシェルターの位置などは明かさず)広めるとよいと思う。災害時に性別による避難生活の難しさが変わらないように現在福生市で備蓄されている物品の量と種類を公開したり、総合防災訓練等で位置を把握したりすると良いと思う。(女性,20～29歳)

主要課題＜第４＞あらゆる分野における男女共同参画の推進

世代間での意識にギャップがあり、この解消は難しいと思う。意思決定機関においては若い世代や学生を中心に決定までできる仕組みがあればいいと思う(男性,60～69歳)
日本におけるジェンダーギャップ指数は、世界の148カ国118位です。これは、政治経済の分野において男女の格差が大きい事にあります。女性初の首相の誕生を機に、まずは国が積極的に格差の是非に推進して欲しい。そして、幼少期からの教育が重要だと思います。(男性,60～69歳)
地域の情報をもっと共有できる小さいアイデアを公的に作るか。生身の人同士が地域の中で、繋がるのは難しくてお互い共有している自分たちのメディアがあればそこで繋がれるし災害のも役立つ。地域の中での繋がりは人の生活を明るくしてくれると思います。(女性,40～49歳)
障害の有無や年齢、性別に関わらず、全ての人が、社会との関わりを持てるような、誰かの為に、何か出来ることの機会を与える等、希望が持てる、孤立しないシステム作りが必要かと思います。例えば月、数千円（数百円）でも稼げる何か方法があって、自分の好きな物や家族の為に何かが買えるだけでも、一緒に居る家族の見方も違ってくるかと思いますし、本人の気持ちも変ってくるかと思います。社会参加できているという実感が持てれば、いきいきと暮していけるのではないかと考えます。(女性,40～49歳)
社会のリーダーたちが目に見えるかたち、例えば議員が多様化したり、校長が多様化すればああこれがフツーなんだと思えるでしょう。そうしたら皆も自由にいきいきと生きられる社会になるのではないでしょうか。(男性,70歳以上)

アンケートについて

多種多様な悩みを解決するには、長時間と専門者（関わる人）が必要となると思う。今現在の目先の問題解決に関係ある事に関連する問題から手を付けて行く事が、最終的には多くの問題が見えてくるのではと思う。※多くの問に、わからない言葉が有り、的確に答えてるかは問題です。(アンケートが無駄になっていると思います）N数増やす事を考えておられるので有れば、回答者を考えた方が良いと思います。(女性,70歳以上)
質問の数が多すぎるし、男女の質問、LGBTの質問、外国人を含めた多様性の質問が混在している。「戻る」が右にあり「確認」等が左にあるため操作に違和感を感じる。横書きなので左右逆の方がしっくりいく。(男性,60～69歳)
特にないが、高齢者には不向きな問が多すぎる。高齢者向きのもっとシンプルな問にすべきと思う。余りに性差別問題に偏り過ぎている問が多い。男女共同参画の言葉が、くどすぎる。(女性,70歳以上)

その他

障害者が地域で生きていける場所の充実が必要だと思う。(女性,60～69歳)
いろんな制度の充実を期待します！(女性,30～39歳)

Ⅲ　調査のまとめ

本調査の結果を、「福生市男女共同参画行動計画（第６期）」における主要課題ごとにまとめると、以下のとおりです。

主要課題＜第１＞ 男女共同参画社会形成への意識づくり等の推進

- **家庭内の役割分担**

家庭における役割分担の理想については、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が 58.8%で最も高くなっています。前回調査の同項目（53.9%）と比較すると、分担を理想とする意識はさらに高まっています。一方、現状で実際に「男女で分担している」と回答した人は 18.8%にとどまっており 、理想と現状の差異は前回調査から依然として生じています。（問１）

- **教育・啓発の重要性**

男女共同参画社会のために重要な教育内容について、「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育（65.8%）」が前回調査（73.5%）と同様に最も高く、次いで「男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育（43.8%）」が続いています。（問 16）

- **男女平等感**

男女平等感について、分野により差がみられ、依然として「政治の場」や「社会通念・慣習・しきたり等」、「社会全体として」は『男性優遇』と感じる割合が高くなっています。「学校教育の場」では 45.2%が平等と感じていますが、国（70.4%）や都（67.5%）と比較すると低い水準です。また、前回調査と比較すると、「家庭生活」や「社会通念・慣習・しきたり等」、「社会全体として」は改善傾向がみられ、意識の変化がうかがえます。（問 23）

- **関心度と認知度**

男女共同参画に関する動きについての関心度に「関心がある」と回答した層は 38.8%で、前回調査から大きな変化はありません。（問 20）

また、男女共同参画に対する意識や関心の変化については、「変化したと感じる」が 21.5%、「特に変化は感じられない」が 46.6%となっています。（問 24）

男女共同参画に関する事業や用語の認知度では、「知っている」が「ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）（55.7%）」や「男女雇用機会均等法（53.9%）」「育児・介護休業法（52.0%）」が５割を超えて高くなっています。一方、市の事業の認知度では、「女性悩みごと相談」が 23.8%と最も高く、女性では 34.7%に対し男性では 9.2%と１割未満と男性の認知度が低いことがうかがえます。前回調査と比較すると、大きな変化はありません。（問 21）

家庭における役割分担については、「男女ともに仕事をし、家事・育児も分担する」ことを理想とする意識が前回調査より高まりましたが、実際に分担できている割合は２割弱にとどまり、理想と現状の差異が生じています。

男女平等感は一部の分野で改善がみられるものの、「政治の場」や「社会通念・慣習・しきたり等」、「社会全体として」などでは依然として男性優遇と感じる割合が高い状況です。

教育や人権啓発の重要性は強く認識されていますが、市の事業認知度は低く、特に男性の認知向上が課題となっています。

主要課題＜第２＞ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進

仕事・家庭・個人生活の優先度から「「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が 19.6%で最多ですが、理想は「「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先」が 34.5%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、現状では「「仕事」を優先」が最上位ではなくなったものの、全体の傾向としては大きな変化はみられません。「「仕事」を優先」について、現状では、都が 31.9%に対し福生市では 19.1%と、ワーク・ライフ・バランスへの意識が高い傾向がうかがえます。（問４）

- **家事・育児の分担状況**

日常生活で行っていることの中で「生活費を稼ぐこと」は男性が担う割合が 45.8%と高い一方、女性では 5.1%となっており、家計管理や食事の準備、掃除、洗濯など多くの家事は女性が担っている割合が高くなっています。若年層では「女性・男性ともに同程度」とする回答が比較的高い傾向がみられます。（問２）

- **職業継続のあり方**

女性と職業の望ましい関わり方として「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」が 43.8%で最も多く、継続就業志向が定着しつつあります。結婚・出産を理由とした離職を前提としない意識が広がっています。（問９）

- **両立支援のニーズ**

女性が結婚・出産後も働き続けるために必要なこととして、「保育施設や保育サービスの充実」（52.0%）が最も高くなっています。前回調査と比較すると、「保育施設や保育サービスの充実」や「家族の理解や協力」を必要とする割合は低下しています。一方、新たに追加した「テレワークの普及など多様な働き方の推進」は 37.5%と高い割合を示しており、働き方の柔軟性に対する期待の高まりがうかがえます。また、男女が共に仕事と生活を両立させるために必要なこととしては、「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」(61.9%)が最も高く、職場環境の改善が不可欠と認識されています。（問 11、問 12）

- **介護と就労**

家族に介護が必要になった場合の就労継続意向について、69 歳以下の層を中心に「やめるつもりはない（42.4%）」が最も高く、前回調査より 6.7 ポイント上昇しました。（問 13）

ワーク・ライフ・バランスの現状については、男女に差がみられるだけでなく、男女共に「仕事」「家庭生活」「個人生活」を共に優先するという理想が十分に実現していない状況となっています。家事分担では依然として女性の負担が大きい傾向がみられるものの、若年層では分担意識の広がりがうかがえます。女性と職業の望ましい関わり方については、「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」が最も高く、継続就業志向が定着しつつあります。ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、長時間労働の是正や多様な働き方の推進など、男女が共に家庭と仕事を両立できる職場環境の整備が求められています。

主要課題＜第３＞ あらゆる暴力の根絶

- **暴力の被害経験**

配偶者や交際相手からの暴力について、「暴力を受けた経験はない」が多数を占めていますが、約２割が配偶者や交際相手からの暴力経験を回答しており、内容は「大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等（精神的暴力）（12.0%）」が「殴る、蹴るなどの身体に対する暴力（身体的暴力）（6.1%）」の約２倍となっています。前回調査と比較して大きな構造的変化はみられないものの、依然として被害が存在している状況です。（問 18）

- **相談状況**

被害を受けた際に「だれ（どこ）にも相談しなかった」人が 39.0%に達しており、前回調査より 5.7 ポイント改善したものの、依然として約４割が相談につながっていない状況です。相談先は「友人・知人に相談した」が主流で、前回調査と同様に、専門機関への相談は少ない状況です。（問 18-１）

- **相談を阻む理由**

相談しなかった理由は「相談しても無駄だと思った（44.0%）」が最多です。また、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」「だれ（どこ）に相談してよいかわからなかった」という回答が前回調査より増加しており（約 10 ポイント増）、心理的・情報的な障壁が依然として高いことが浮き彫りになりました。（問 18-２）

- **行政への要望**

行政に対しては、「ＤＶやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備（46.3%）」と「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実・強化（46.2%）」がほぼ同率で求められています。前回調査とほぼ同様の傾向です。（問 19）

ドメスティック・バイオレンスの被害経験がある人は一定数みられており、経験した暴力については精神的暴力が身体的暴力を上回っています。

被害を受けた際の対応については、男女共に「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。相談した場合でも、「警察・相談所」よりも「友人・親」といった身近な相談者に相談する割合が高く、専門機関の利用は依然として低い状況です。

被害の潜在化を防ぐためには、専門の相談機関を利用しやすくすることに加え、身近な相談者が適切に対応できるよう、ドメスティック・バイオレンスに関する正しい知識の普及・啓発を進めることが重要です。

主要課題＜第４＞ あらゆる分野における男女共同参画の推進

- **意思決定の場への参画**

市の審議会等の女性比率が 28.7%という現状に対し、「特に男女の比率にはこだわらない」（31.7%）が最も高いものの、「もう少し女性が増えたほうがよい」「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」を合わせると約４割が女性の増加を望んでおり、前回調査とほぼ同様の傾向となっています。（問 22）

- **女性リーダーを増やすための障害**

政治・経済・地域活動等の分野で女性リーダーを増やすうえでの障害としては、「保育・介護・家事等における家族等の支援が十分ではないこと」（45.5%）が最も高く、次いで「保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」（36.7%）、「長時間労働の改善が十分ではないこと」（35.5%）が続いています。（問７）

- **防災における視点**

防災・災害復興対策において性別に配慮が必要な取組としては、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」（60.5%）が最も高く、前回調査より 25 ポイント増加しています。次いで「避難所の設置・運営体制」（53.4%）が続いています。（問６）

- **多様性の尊重**

多様性を生かした社会づくりに向けて行政が力を入れるべきこととしては、「多様性の理解促進のための人権教育の充実」（40.3%）が最も高くなっています。性的少数者への取組については、53.2%が必要と回答している一方、男性では「必要だと思わない」とする割合が女性の２倍以上となっており、性別による意識差がみられます。前回調査と比較しても、多様性尊重に対する意識は引き続き高い水準にあります。（問 25、問 26）

政策・方針決定の場における女性参画については、女性の増加を望む声が一定程度みられる一方で、家事・育児・介護負担や長時間労働などが参画の障壁として認識されています。

また、防災分野では備蓄体制や避難所運営への配慮を求める割合が高く、性別に配慮した取組の必要性が強く認識されています。多様性を尊重する社会づくりについても高い関心が示されており、引き続き理解促進や啓発の推進が求められています。

これらの結果から、家庭・職場環境の整備を進めるとともに、防災や地域活動を含むあらゆる分野においてジェンダー視点を踏まえた施策の推進が重要といえます。

Ⅳ　調査票

福生市
男女共同参画に関するアンケート調査

―　ご協力のお願い　―

市民の皆様には、日頃より市政にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本市では、「福生市男女共同参画行動計画（第６期）」に基づき、「互いの人権を尊重し合い、それぞれが活躍できる社会づくり」を基本理念として施策を進めてまいりました。

このたび「第７期行動計画」の策定にあたり、市民意識を反映させるため「男女共同参画に関するアンケート調査」を実施いたします。対象は令和７年10月１日を基準日として住民基本台帳より無作為抽出した18歳以上の男女2,000人を選ばせていただきました。回答は無記名とし、結果は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、いただいた回答は本調査の目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

令和７年10月

【ご回答にあたってのお願い】

- 封筒の宛名に表示のある**ご本人がお答えください**。
- 回答方法は《紙の調査票による郵送》または《ＷＥＢ》の２種類あります。
- 《紙の調査票による郵送》で回答される方は、この調査票に直接ご回答いただき、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストへご投函ください。
- 《ＷＥＢ》で回答される方は、下の二次元コードからアクセスしていただき、ＩＤとパスワードをご入力の上、ご回答ください。
- 設問は、選択形式と自由記入形式があります。選択形式は「１つ選ぶ場合」と「複数選ぶ場合」とがありますので、あてはまる番号をご回答ください。「その他」を選んだ場合や自由記入形式の場合は、具体的な内容をご回答ください。
- 回答締め切り日は**【令和７年11月28日(金)】**です。

ＷＥＢ回答の方はこちら

ＷＥＢで回答していただける方は、右記の二次元コードを読み取るか、以下のＵＲＬを入力すると、回答フォームにアクセスすることができます。

https://www16.webcas.net/form/pub/survey-2311/fussa_danjyo

ＷＥＢによる回答には、以下のアクセス用「ＩＤ／パスワード」が必要です。

ＩＤ　＿＿＿＿＿＿＿＿

パスワード　＿＿＿＿＿＿＿＿

【本調査に関するお問い合わせ先】
福生市役所　生活環境部　協働推進課
東京都福生市本町５番地
電話：042-551-1590（直通）
ＦＡＸ：042-553-7500

福生市公式キャラクター
「たっけー☆☆」

日本語でこたえることがむずかしい方へ

日本語がむずかしい方は、１ページ目の二次元（ＱＲ）コードを読み取って、「やさしい日本語」のＷＥＢ版調査票から回答をしてください。

≪やさしい日本語≫

日本語がむずかしい人は、１ページめにある二次元（ＱＲ）コードをよみとって「やさしい日本語」のアンケートフォームでこたえてください。

If you are not fluent in Japanese, please scan the QR code on the first page and answer the survey in "Easy Japanese."

일본어가 어려우신 분은 1 페이지에 있는 이차원 코드를 스캔한 후, '알기 쉬운 일본어' 버전의 설문조사 양식으로 응답해 주시기 바랍니다.

Người gặp khó khăn trong tiếng Nhật thì vui lòng đọc mã nhị nguyên ở trang 1 và trả lời khảo sát bằng "Tiếng Nhật đơn giản".

जापानी भाषा गाह्रो लाग्ने व्यक्तिहरूले पहिलो पृष्ठमा भएको QR कोड स्क्यान गरेर “सजिलो जापानी भाषा” मा लेखिएको सर्वेक्षण फारममा जवाफ दिनुहोस्।

※ＱＲコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

1　ご自身やご家族について

Ｆ１　あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

1　女性	2　男性	3　その他（答えたくない含む）

Ｆ２　あなたの年齢をお答えください。（○は１つ）

1　20 歳未満	3　30～39 歳	5　50～59 歳	7　70 歳以上
2　20～29 歳	4　40～49 歳	6　60～69 歳	

Ｆ３　あなたは現在ご結婚されていますか。（○は１つ）

1　結婚している	3　結婚後、離別または死別した
2　パートナー（事実婚・交際相手）と同居している	4　結婚していない
	5　その他（具体的に：　　）

Ｆ４　あなたと配偶者・パートナーの職業はどれに当てはまりますか。配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄のみご記入ください。（①と②それぞれ○は１つ）

	①あなた自身	②配偶者・パートナー
(a) 企業・官公庁の正社員・職員	1	1
(b) パート・アルバイト専業	2	2
(c) 自営業（家族従業員含む）	3	3
(d) 派遣社員・契約社員	4	4
(e) 内職・在宅ワーク	5	5
(f) 家事専業	6	6
(g) 学生	7	7
(h) 無職	8	8
(i) その他	9 （職種：　　）	9 （職種：　　）

【Ｆ４の①あなた自身の職業で「１」～「４」のいずれか（勤め先（事業所や職場）がある）を選択した方】

Ｆ４-１　あなたの主な勤務先の所在地をお答えください。（○は１つ）

1　福生市内	3　23 区内
2　多摩地区（市町村部）	4　その他

Ｆ５　あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。同居・別居は問いません。（○は１つ）

1　いる	2　いない

【Ｆ５で「１」（お子さんがいる）を選択した方】

Ｆ５-１　一番年齢が下のお子さんはどれにあたりますか。（○は１つ）

1　未就学児	4　専門学校生・短大生・大学生
2　小学生	5　社会人
3　中学生・高校生（高等専修学校含む）	6　その他（　　）